

特集レポート

日本酒フェア 2011

日本に笑顔を！大震災を乗り越えて、蔵元魂全開



平成 22BY 新酒鑑評会公開さき酒会の模様



年に一度の日本酒の祭典「日本酒フェア 2011」が6月15日、東京豊島区の池袋サンシャインシティで開催されました。東日本大震災で大きな被害を受け、今なおその後遺症に苦しむ日本酒業界が、笑顔を取り戻そうと蔵元魂全開で取り組んだビッグイベント。日本酒ファンの熱い応援に包まれてヒートアップした一日の模様をレポートします。



第5回全国日本酒フェアの会場

困難に屈しない。蔵元の心意気を日本酒ファンも応援



きき猪口の中にも笑顔
オープニングのテープカット風景
左から土井清酒技術委員長、酒類
総研の木崎理事長、辰馬会長、佐
浦需要開発委員長と、日本酒の PR
キャラクター・おちょくん

☺ 「こんなときこそ日本酒を支えよう」例年にまさる熱気の会場

3月11日の東日本大震災で、日本酒業界は270を超える蔵元が被災し（うち蔵・事務所等の全壊15）、9名の従業員が犠牲になるなど、甚大な被害を蒙りました。福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染問題は未だ収束の見通しが立たず、地域の蔵元の経営はもちろん、日本酒全体の輸出にも大きな障害をもたらしています。

そうした中で開かれた今回の「日本酒フェア 2011」。会場には、復興に掛ける業界の思いと、逆境に屈しない蔵元の手紙に込められた心意気に応えて、「こんなときこそ日本酒を支えよう」という日本酒ファンや流通・料飲関係者が続々と来場。例年にまさる熱気が充満する中、(独)酒類総合研究所&中央会共催の「22BY全国新酒鑑評会公開きき酒会」(第1部=10時~13時、第2部=16時~20時の2部入替制)と、中央会単独主催の「第5回全国日本酒フェア」(11時~20時)、さらには、アンケートに答えて日本酒や蔵元グッズなどが当たる抽選会などの来場者サービスも合わせて、盛りだくさんの一日を堪能しました。



人気の抽選コーナー。義援金の受付も

☺ 「トビキリの一品と出合って笑顔で帰って」(辰馬会長の挨拶)

午前10時45分から行われたオープニング・セレモニーでは、中央会の辰馬会長と酒類総研の木崎理事長が、それぞれ主催者を代表して「日本酒業界はいま険しい道を復興に向かって進んでいる。今日はトビキリの一品と出合って笑顔で帰ってください」(辰馬会長)、「今年の鑑評会には東日本大震災で被災した県からもほぼ前年並みの出品があった。困難の中で立派な酒造りに取り組んだ被災地の杜氏さんに心より敬意を表する」(木崎理事長)と挨拶。続いて、関係者一同でテープカットを行い、開催を待ち侘びたおおぜいのファンに向け「日本酒フェア 2011」の開幕を宣言しました。



辰馬会長 木崎理事長

平成22BY全国新酒鑑評会「公開きき酒会」の様



😊 困難な酒造りの中「総じてきれいな味」。入賞酒435点を大公開

日本酒の酒質と技術の向上を目的に1911年(明治44年)から続けられてきた全国新酒鑑評会(2010年から酒類総研と中央会の共催)。通算99回目となる今回は、総出品数875点のうち437点が入賞し、うち244点が金賞を受賞しています。その入賞酒のほぼ全点(435点)を一挙に公開したのが「公開きき酒会」です。

酒類総研によれば、平成22BYは天候不順に加えて東日本大震災での被災という困難な状況下での酒造りとなったものの、「総じてきれいな味と穏やかな香りがほどよく調和した軽快でソフトな酒質」になったとのこと。会場には、そうした造り手の苦闘の成果を確認しようと開場前から多勢の来場者が詰め掛け、地域別8ブロックに区分された場内を巡りながら、真剣みいっぱいのきき酒風景を繰り広げました。



開場前から長蛇の列

😊 故郷を気づかう来場者。被災状況の写真に爪痕の深さを実感

今回特に大きな関心を集めたのは、やはり東日本各地区のブロック。中には「故郷の福島県を応援するために来ました」と脇目もふらず南東北のブロックをめざす女性もいて、故郷の酒を気づかう日本酒ファンの思いを覗かせていました。会場の一画には大震災の被災状況を撮影した写真の展示コーナーも設けられ、ある男性は「想像した以上に酷い」と爪痕の深さを改めて実感した様子(来場者の感想は6頁に)。このほか、各種パンフレットや赤レンガ酒造工場で醸した純米大吟醸酒の試飲サービスなどを行った酒類総研のブースも人気を集めていました。



会場の様子(左は酒類総研の展示コーナー。右から2番目は被災状況の写真に見入る来場者)

第5回「全国日本酒フェア」の様相



会場で拾った日本酒応援の風景

😊 45都道府県&関連6団体が結集して、パワー全開のPR活動

「第5回全国日本酒フェア」には、全国45都道府県と日本酒造青年協議会、日本酒造協同組合連合会など関係6団体が総結集。アイデアを凝らした各県のブースが縦横に立ち並んだ会場では、装いも多種多様な組合関係者が、自慢の日本酒738銘柄の試飲&販売を実施。特産物のおつまみサービスなども含めて、パワー全開のPRを繰り広げました(各ブースの風景は6~7頁に)。

被災地の中でも特に甚大な打撃を蒙った岩手、宮城、福島3県も参加。浴衣姿の女性担当者が地元特産物のつまみをサービスした岩手県、地元出身のお笑いコンビがじゃんけんゲームで場を盛り上げた福島県、そして県内の被災状況の写真を展示して復興への意志をアピールした宮城県と、3県とも元気いっぱいの活動を展開し、来場者の中からは「ちょっと安心しました」という声も。

😊 日本酒応援のメッセージ、義援金、そして日本酒で乾杯！

会場のあちこちに日本酒応援の風景が見られたのも、今回の「日本酒フェア」ならではのといえます。被災状況の記録写真と共に設置された「東日本大震災復興応援メッセージ」のボードは、「一日も早い復興を」「日本酒を飲んで後方支援」「酒好きの誇り、東日本ガンバレ！」といった言葉で隙間もなくなるほど。被災を免れた西日本の組合も独自に募金箱を設置して支援を呼びかけたり、政府が展開している復興キャンペーンのコピー『日本酒で乾杯！で応援しよう』をブースに張り出したりして東日本の同胞への支援を呼びかけました。



来場者の波



福島県のブースはハイテンション



次々に寄せられる応援メッセージ

😊 「日本酒クールスタイル」「日本酒の楽しみ方」をテーマにセミナー

今回の「日本酒セミナー」は、トータル飲料コンサルタントの友田晶子さん（右の写真）と中央会の高橋理事が、それぞれ30分間のミニセミナーを行ったほか（友田さん3回、高橋理事2回）、大震災で被災した東日本6県の組合関係者が、「日本酒に笑顔を醸しだそう～蔵元からのメッセージ」と題して講演しました。

友田さんのセミナーは、4月からスタートした「日本酒クールスタイル」のレシピ監修者で、講演では「この夏は冷房を切って、爽やかに甘酸っぱく日本酒を楽しんでもらう」ためのクールスタイル6種類を紹介。途中には「日本酒+カシス」「サムライロック」を実際にテイastingする時間も設けられ（同）、参加者からは「日本酒のイメージが変わった」という感想も。

一方、高橋理事のお話は「日本酒を一層楽しむために」と題して、日本酒の健康効果や上手なきき酒方法などを、温度帯の違う日本酒（常温、冷酒、40のお燗）をテイastingしつつ説明したのですが、その前段で大地震による日本酒業界の被害状況と原発事故の影響に触れた高橋理事は、「酒、醗、水について放射能汚染の分析を行った結果、いずれも問題なしと判定された。どうぞ安心して日本酒を飲んでください」とアピールしました。



😊 東日本6県が復興への熱い思いを語る。「絶対あきらめない」

「日本酒に笑顔を醸しだそう～蔵元からのメッセージ」では、パート1の東北編（岩手県、福島県、宮城県）、パート2の関東編（茨城県、栃木県、千葉県）に分けて行われ、岩手県の久慈会長ら6県の組合関係者が被害の状況や復興への思いを語りました。

被害の程度や復興への足取りは各県それぞれながら、いずれにも共通していたのは「絶対諦めない」「必ず復興するぞ」という熱い思い。「『がんばろう岩手』のシールを貼った商品の売上から10円ずつ義援金に回している」（岩手県）「納豆のように粘ってネバーギブアップ」（茨城県）「皆で復興を果たし“さらば涙と言おう”」（千葉県）といった言葉、さらには着々と次のイベントの準備を進める県の姿勢（福島県ふくしま美酒体験/9月2日、セルリアンタワー東急ホテル、千葉の酒フェスタ/10月7日、幕張メッセ）に、参加者からは「日本酒は必ず近いうちに復活すると信じます。それが伝統産業の強みというか、知恵の蓄積というものでは？」といった感想も聞かれました。



講演を行った6県の組合関係者。左から岩手県の久慈会長、福島県の新城会長、宮城県の森専務理事、茨城県の山内氏、栃木県の阿久津実行委員長、千葉県の守屋広報委員長

来場者の声



😊 「公開きき酒会」の会場で－「無事開催できてよかった」

・故郷が福島県です。福島の蔵元を応援したいと思って参加しました。応援しているのは、日本酒だけじゃありません。うちでは米も野菜も果物も味噌も全部福島産。せめてそんなことでもしていないと居ても立ってもしてられない気持ちです。蔵元は頑張っていますね(一般、女性)。

・日本酒ファンだと自認していますが、鑑評会の公開きき酒会ってのは酒のプロが集るものだと思っていたので、これまであまり出たことがありませんでした。でも、こんなときこそ日本酒を応援したいと思って、今回は友だちを誘って初参加です。さすがにどの酒もおいしい(一般、男性)。

・(被災状況の写真を見て)想像していた以上に酷いやられ方ですね。これでよく酒造りができたと感じています。とにかく無事開催できてよかった(蔵元関係、男性)。

・関西の出身ですが、今回は東日本のお酒を中心にきき酒しました。エールを贈るといふか、やっぱりどんな酒ができたのかに関心があったからです。ただ、南東北のブロックは混雑がすごくてゆっくりきき酒できませんでした(料飲店経営、男性)。

😊 「全国日本酒フェア」の会場で－「縮こまらずに、日本酒にお金を使おう」

・ボランティアもいいけど、いま何より大切なのはお金を使うこと。お金を使うなら日本酒です。なんて威張れるほどお金持ちじゃないけど、当分はできるだけ日本酒を飲むようにしたい気持ち。皆さんも変に縮こまらずに、お金を世の中に回しましょう。ちょっと酔っ払ったかな?(一般、男性)。

・とてもいい一日でした。このイベントには、これまで大体参加してきましたが、今回は正直、開催できないんじゃないかと思っていました。苦しい中でこれだけのイベントを準備した日本酒業界は偉いと思います。うちの店は和風イタリアンが中心ですが、日本酒も結構出ます。これからは東北の酒に力を入れてみたい(料飲店経営、男性)。

・IWC(インターナショナル・ワイン・チャレンジ)の金賞受賞酒を試飲したくて参加しました。毎年そうです。今年はどんな酒が賞を取ったのかを想像するだけで楽しい。話題性もあるし、これからの日本酒にとって面白い試みだと思います(料飲店関係、女性)。

・「日本酒クールスタイル」のセミナーを聞いて、日本酒のイメージが変わりました。飲みやすいし爽やかです。それほど日本酒好きじゃなかった私ですが、お酒の世界が広がりそう(一般、女性)。

・「日本酒クールスタイル」は、女性と一緒に飲むには良さそうですね(一般、男性)。

各県酒造組合・関連団体の出展風景から



北海道



青森県



秋田県



山形県



岩手県



宮城県



福島県



茨城県



栃木県



群馬県



埼玉県



東京都



千葉県



神奈川県



山梨県



長野県



新潟県



福井県



石川県



富山県



静岡県



愛知県



三重県



岐阜県



滋賀県



京都府



大阪府



奈良県



和歌山県



兵庫県



岡山県



広島県



鳥取県



島根県



山口県



愛媛県



香川県



徳島県



高知県



福岡県



佐賀県



長崎県



大分県



熊本県



宮崎県



日本酒造青年協議会



日本酒造協同組合連合会



長期熟成酒研究会



日本酒ライスパワーネットワーク



東京農大花酵母研究会



ワイングラスでおいしい
日本酒アワード



インフォメーションコーナー

SAKE FAIR 2011

in

IKEBUKURO TOKYO

6/15/2011